

Japanese Institute of Landscape Architecture

学会広報

平成十八年七月三十日発行

第18巻・第2号

平成18年度日本造園学会九州支部大会案内	4
◇ 北海道支部大会案内	5
◇ 関東支部大会案内	7
◇ 関西支部大会案内	8
◇ 東北支部大会案内	10
<hr/>	
平成19年度全国大会案内—研究発表論文集の投稿申込について	1
第9回日・中・韓国際ランドスケープ専門家会議及び シンポジウム開催案内	2
教員公募	11
文献紹介	14
平成17年度関東支部大会事例・研究報告発表会妙録	21
平成18年度造園夏季大会案内	30
日本造園学会ホームページのご案内	31

〈編集〉(社)日本造園学会事務局

〒150-0041 東京都渋谷区神南1-20-11 造園会館6F

TEL 03-5459-0515、FAX 03-5459-0516

平成19年度日本造園学会全国大会
—研究発表論文集の投稿申込について—

平成19年度の全国大会における研究発表論文（ランドスケープ研究第70巻5号）に関しては、下記のようにになりましたので、会員の皆様にお知らせいたします。

投稿規定にしたがって応募してください。

なお、今回から綿密な査読を行うために申し込み期間を変更しています。また、全国大会の活性化に向けて発表形式にも変更を加えています。さらに、学会の財政健全化のために研究発表論文集（5号）の発行形式を変更していますので十分ご注意ください。

1. 申 込 期 間：平成18年8月31日（木）14時～平成18年9月14日（木）14時（電子申込による）
2. 論文投稿期限：平成18年9月28日（木）（必着・期日厳守）
3. 提 出 先：日本造園学会 論文集委員会
4. 大会の開催地：平成19年5月下旬，日本大学生物資源科学部湘南キャンパス

投稿及び電子申込に関する問い合わせは、論文集委員会 toms@nodai.ac.jp まで

日中韓国際ランドスケープ専門家会議開催のお知らせ（第2報）

標記会議について、下記のとおりご案内いたします。会員各位多数のご参加をお待ちしております。また、造園学会会員以外の方や学生の参加も歓迎します。なお、本年度は九州支部大会と同時に開催されます。

1. 趣旨：

日中韓国際ランドスケープ専門家会議／シンポジウムは、造園関連の研究・技術開発、人的交流を企図し、日本、中国、韓国の3カ国において1998年から継続的に開催されている国際会議です。設立以来、3カ国の持ち回りでランドスケープ専門家会議及びシンポジウム等を開催し、多様な新規研究成果の公表、技術交流などを行ってきました。それぞれの国が専門とするランドスケープアーキテクチャ（造園）を通じて毎年独自のテーマにして会議を開催し、昨年の上海大会で8年を迎えることができました。本年は「東アジアの造園文化の普遍性と独自性」をテーマとし、その趣旨は自然のもたらす脅威と恩恵をどのように受け止め、そこに生まれる文化がどのような造園空間を生み出してきたかを知らうとするものですが、かつての暮らしの視点から生活空間を守る防災や伝統的な緑化の知恵が発掘されることが期待されます。会議では学生及び若手研究者のフォーラムがあり、また学生による競技設計も企画されています。今回で第9回となる本会議は中国風景園林学会、韓国造景学会の協力を得ながら、日本造園学会が企画準備し、ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）をはじめとする多数の共催・後援により開催されることになりました。

2. 主催：（社）日本造園学会、中国風景園林学会、韓国造景学会、日本造園学会九州支部

共催：ユネスコ・アジア文化センター、全国都市公園整備促進協議会

後援：国土交通省九州地方整備局、長崎県、長崎市、九州大学、長崎総合科学大学、長崎大学、南九州大学、県立長崎シーボルト大学、長崎外国語大学、長崎国際大学、道路緑化保全協会九州支部、長崎県グリーン事業協同組合

*後援依頼中：西日本短期大学、日本造園建設業協会九州総支部、ランドスケープコンサルタンツ協会九州支部、日本公園施設業協会九州・沖縄支部、日本造園建設業協会長崎県支部、日本造園組合連合会長崎県支部、長崎県造園建設業協会、長崎市造園建設業協同組合、古賀植木園芸組合、九州緑化産業協議会

3. 開催日時：2006年8月28日（月）～8月30日（水）

8月28日 メインテーマ：東アジアの造園文化の普遍性と独自性

午前 開会の辞、主催者挨拶、歓迎挨拶、セッション1

午後 セッション2、セッション3

8月29日 午前 学生フォーラム・ポスターセッション

午後 シンポジウム

夕刻 交流会

8月30日 テクニカルツアー（西九州の自然・文化風景）／支部大会を同時開催

4. 開催場所：

日中韓国際ランドスケープ専門家会議およびシンポジウム

長崎市ブリックホール

〒862-8104 長崎市茂里町2-38 TEL (095) -842-2002 FAX (095) -842-2330

5. 日程

8月28日（月）

日中韓国際ランドスケープ専門家会議

開会の辞 秋山 寛
 3 会長からのご挨拶 (日・中・韓)
 セッション1 「地域固有の造園文化」 座長：包清博之
 セッション2 「アジアの交流における造園の普遍性」 座長：鈴木 誠
 セッション3 「造園と自然・文化・人間の共生」 座長：薛 孝夫
 総括と閉会の辞 赤坂 信

8月29日 (火)

学生フォーラム
 ポスターセッション
 日中韓国際ランドスケープシンポジウム
 基調講演 「湊街長崎の都市形成と景観」 林 一馬
 パネルディスカッション「都市のポテンシャルと景観・みどり・まちづくり」
 コーディネーター：蓑茂寿太郎
 パネリスト：林 一馬，重松敏則，神山秀美，金 栄彪，中国から1名（照会中）
 総括 蓑茂寿太郎
 交流会（コンペ講評と表彰，懇親会）

8月30日 (水)

テクニカルツアー
 長崎ブリックホール（9：00発） ⇒ 吉野ヶ里歴史公園 ⇒ 円融寺庭園（大村市） ⇒ 古賀植木センター（長崎市） ⇒ 長崎ブリックホール（17：30着予定）

／同時開催 造園学会九州支部大会

夕映え観賞会，3カ国学会長会議

6. 参加費：

- 日中韓国際ランドスケープ専門家会議
 事前に、氏名・住所（連絡先）を明記して、ファクシミリまたは電子メールで（社）日本造園学会（下記）に参加を申し込むこと。
申し込み締切： 8月5日（土）（期日をすぎている場合はその可否を下記事務局に問合せ下さいませようお願い致します。）
 なお、参加費の支払いは、登録時に直接会場受付で。

参加費1万5千円。ただし学生（大学院生を含む）は5千円。

- シンポジウム，学生フォーラム，ポスターセッション（当日受付・参加無料）

7. 問い合わせ・申し込み先

日本造園学会事務局
 〒150-0041東京都渋谷区神南1-20-11 造園会館 6F
 電話：03-5459-0515 Fax：03-5459-0516
 E-mail：staff@landscapearchitecture.or.jp

8. 宿泊については各自手配願います。

平成18年度 日本造園学会九州支部大会案内

標記の大会を下記のとおり開催いたします。会員各位の研究・事例報告の発表ならびに大会へのご参加をお待ちしております。なお、本大会は2006年8月28日～30日に行われる第9回日・中・韓国国際ランドスケープ専門家会議及びシンポジウム（以下、JKCと略す）と合同して行われます。

- 開催月日 平成18年8月29日（火）・30日（水）
- 開催場所 長崎県長崎市（長崎ブリックホール）
- 日 程
- <第1日目> 8月29日（火）
- | | |
|----------------|---------------|
| 1. 基調講演とシンポジウム | 13:30 ~ 17:30 |
| 2. 交流会 | (夜) |
- <第2日目> 8月30日（水）
- | | |
|------------------|---------------|
| 1. 日本造園学会九州支部幹事会 | 10:00 ~ 11:30 |
| 2. 支部総会 | 12:30 ~ 13:00 |
| 3. 研究・事例報告会 | 13:00 ~ 16:00 |

- 最新情報 支部大会の最新情報は、下記のWEBサイトをご覧ください。
<http://www.design.kyushu-u.ac.jp/~qzouen/>

- 問合せ・申込み 日本造園学会九州支部事務局（担当：朝廣和夫）
〒815-8540 福岡県福岡市南区塩原4-9-1
九州大学芸術工学研究院環境計画部門 内
TEL/FAX：092-553-4480 E-mail：qzouen@design.kyushu-u.ac.jp

平成18年度 日本造園学会北海道支部大会案内

標記の大会を下記のとおり開催いたします。ご参加、お待ちしております。

(社) 日本造園学会北海道支部

■開催日：平成18年9月8日(金)～9日(土)

■場 所：恵庭市民会館(恵庭市新町10番地)

■テーマ：「地域から始まる花のランドスケープ」

■9月8日(金) 受付9:00～

- | | |
|--------------------------------------|------------------------|
| 1. 研究・事例報告会 | 9:30～12:00 |
| 2. ポスターセッション | 9:30～13:00 |
| 3. 北海道学生セッション | 9:30～16:00 |
| 4. 北海道支部総会 | 13:00～13:20 |
| 5. 基調講演： | 13:30～15:00 |
| 「地域生活文化としての花のランドスケープ創造における企業の役割(仮題)」 | |
| 庄司昭夫氏((株)アレフ 代表取締役) | |
| 6. シンポジウム『北海道における花のランドスケープの可能性』 | 15:15～17:15 |
| 【パネリスト】 | 中島興世氏(恵庭市長) |
| | 小松正明氏(北海道開発局) |
| | 三島敬子氏(NPO北海道花ネットワーク) |
| 【コメンテーター】 | 庄司昭夫氏((株)アレフ 代表取締役) |
| 【コーディネーター】 | 近藤哲也氏(北海道大学大学院農学研究院教授) |
| 7. 懇親会(恵庭市民会館) | 18:00～20:00 |

■9月9日(土)

《現地見学会》

- | | | |
|------|------------------------------------|-------|
| 受付 | J R 恵庭駅東口 | 9:00～ |
| バス出発 | 市民花ガイドによる案内 | 9:30 |
| | (恵み野オープンガーデン, サンガーデン, えこりん村『銀河庭園』) | |
| | えこりん村内レストランで昼食 | |
| | 会議室等で意見交換・交流会(未定) | |
| | (漁商店街) | |
| | 恵庭駅北口到着 終了・解散 | 15:30 |

- 参加費 資料代500円, 事例報告集(資料含む)2,000円(学生1,000円)
 懇親会費4,500円(学生2,000円), 見学会費3,000円(見学会費は未定)
 事例報告集と懇親会同時申し込みの場合6,000円
 ※今回は10周年を記念し, 事例報告集のバックナンバーの販売も行います。

■申込方法

- 1) 参加を希望される方（口頭発表，ポスター発表）：
8月25日（金）までに北海道支部事務局あてにお名前，所属，連絡先を郵便・ファックス・電子メールにてお申し込み下さい。
- 2) 研究・事例報告会で発表を希望される方：
8月4日（金）までに北海道支部事務局あてに①発表者名，②所属，③題名，④希望発表形態（口頭・ポスター）について郵便・ファックス・電子メールにてお申し込み下さい。なお，期日をすぎている場合はその可否を下記事務局に問合せ下さいますようお願い致します。
その後，送付される執筆要領に従い原稿を作成し，8月17日（金）までに必着で送付して下さい。原則，ファイルでの入稿とします。
- 3) ポスターによる研究・事例報告で発表を希望される方：
ポスターは当日，ご持参願います。
- 4) 資料代等，各参加費につきましては当日にお支払い願います。
- 5) 9日の現地見学会はバスの都合上，先着順となる可能性がございます。
- 6) 参加・発表申し込みはホームページからも行えます。各セッションの詳細などはホームページを御参照下さい。

<http://www.jila-hokkaido.com/>

◇参加申込・問い合わせ先：日本造園学会北海道支部事務局

〒097-0197 美唄市美唄1610-1 専修大学北海道短期大学みどりの総合科学科内

Tel&Fax：0126-63-0228

E-mail：info@jila-hokkaido.com 担当：岡田

◇研究・事例報告発表の申込先：

〒060-8589 札幌市北区北9条西9丁目 北海道大学大学院農学研究院

花卉・緑地計画分野内

Tel&Fax：011-706-2452

E-Mail：info@jila-hokkaido.com 担当：松島

※今年度は参加申込先と発表申込先が異なる（Mailは同じ）のでご注意ください。

平成18年度 日本造園学会関東支部大会案内

表記の大会を下記のとおり開催いたします。会員各位の事例報告，研究報告の発表ならびに大会へのご参加をお待ちしております。特に事例報告では，ご自身が関わった「調査・計画・設計・施工・管理・技術」などの「実務報告」や「行政」における取り組みなど，造園分野各方面からの報告をお待ちしております。

■開催月日 平成18年9月30日（土）

■開催場所 千葉大学園芸学部（千葉県松戸市）

■日 程（予定）

- (1) 事例・研究報告発表会
- (2) ポスターセッション
- (3) 支部総会
- (4) シンポジウム
「関東編造園空間インベントリー（造園資産の目録）」（仮）
- (5) デザインワークショップ
「サマースタジオ2006ランドスケープ・コンバージョン～風景の転換」
- (6) 懇親会

■事例・研究報告の申込み

事例報告・研究報告の発表を希望される方は，8月4日（金）までにE-mail，または郵送，FAXいずれかにより下記事務局までお申込みください。申込みには，①発表者名（所属），②発表題目（原稿提出時に変更可），③発表形式（口頭発表，ポスター発表），④連絡先（住所，電話，E-mail，FAX）をお知らせください。なお，期日をすぎている場合はその可否を下記事務局に問合せ下さいませようお願いします。

申込み後，送られてくる執筆要領にしたがって作成し，[A4判2ページ（4000字程度）]，パネル発表（ポスター）は，300字程度の概要を，9月8日（金）必着で下記事務局あてに送付してください。発表登録料は，1報告につき3,000円です。

なお，パネル発表（ポスター）とは，A1サイズ2枚（用紙は横位置，並べ方は上下）を使用し，写真・図表・解説等は内容を表現したもので，指定された時間にパネルの前で来場者と質疑応答を行います。完成された「パネル」は，9月29日（金）までに千葉大学園芸学部へ送付していただくことになります。

■問合せ・申込み

日本造園学会関東支部事務局（担当：高橋輝昌）

〒271-8510 千葉県松戸市松戸648 千葉大学園芸学部緑地・環境学科

TEL：047-308-8892 FAX：047-308-8893 E-mail：teru@faculty.chiba-u.jp

平成18年度 日本造園学会関西支部大会案内（第1回広報） 関西支部発足40周年記念大会

標記の大会を下記のとおり開催いたします。会員各位多数のご参加をお待ちしております。関西地区以外の方々もご参加ください。

■開催月日：平成18年10月13日（金）～10月15日（日）

■開催場所：京都市

◆14日・15日：京都大学農学部総合館

（京都市左京区北白川追分町，京阪「出町柳駅」下車東へ徒歩15分）

■日 程：

<第1日目>10月13日（金）

・研修会および見学会

<第2日目>10月14日（土）

・シンポジウム：（仮テーマ）「古（いにしえ）の京の風土を次代に継承するために」

・懇親会

<第3日目>10月15日（日）

・研究・事例発表セッション（口頭発表，ポスター発表）

・幹事会

・総会

参加費用：未定。下記ホームページにてお知らせいたします。

■参加申込：

<研究・事例発表の申込>：以下の1)～6)の項目を明記の上，9月1日（金）までに，下記の支部事務局あてに，メールまたはFAXで申し込んでください。（できる限りメールにてお願いします。）

- 1) 著者名，所属（発表者の名前の先頭に○をつけておいてください）
- 2) 希望する発表形態（口頭またはポスター）
- 3) 発表タイトル（日本語および英語）
- 4) 発表内容のキーワード（日本語および英語，各3～5）
- 5) 発表内容の要旨（300字以内）
- 6) 連絡先（メール，ファックスおよび電話）

・口頭発表およびポスター発表の発表時間配分は，申込件数に応じて調整します。

・申込状況や発表内容によっては，発表形態の変更をお願いする場合があります。

・口頭発表を申し込まれた方には，9月22日（金）必着で，発表要旨集の原稿A4・2頁の提出をお願いします。

・ポスター発表を申し込まれた方は，当日（10月15日（日）），会場へ直接ポスター（パネルまたは紙）をお持ち下さい。なお，ポスター1件の割り当てスペースは，幅90cm・高140cm程度を予定しています。

・口頭発表については，3～5報のセッション制でディスカッション時間を設けます。

・ポスター発表では，指定された時間にポスターの前でのプレゼンテーション，質疑応答をお願いします。

・申込時の内容を大会報告等としてデータ提供する予定です。

<懇親会の申込>：9月29日（金）までに下記事務局までお申し込みください。

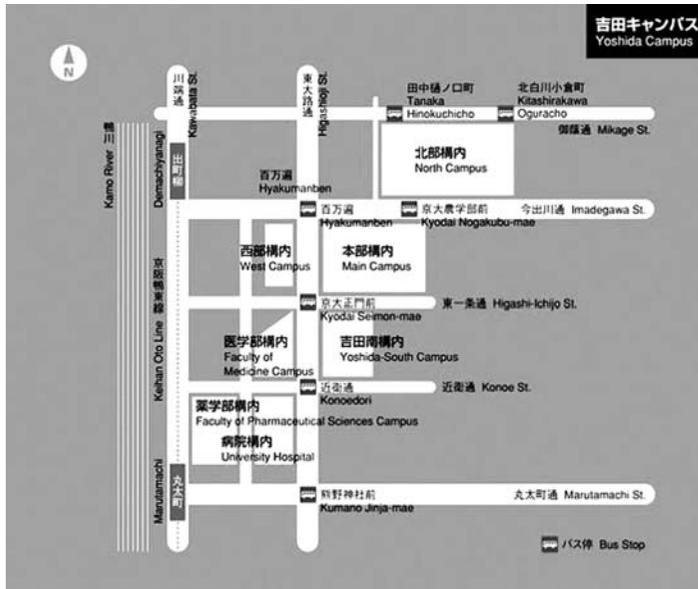
<見学会および研修会の申込>：9月10日（日）

■申し込み・問い合わせ先：

〒606-8502 京都市左京区北白川追分町 京都大学大学院農学研究科環境デザイン学研究室
 日本造園学会関西支部事務局（担当：今西純一）電話：075-753-6099, FAX：075-753-6082
 メール：imanishi@kais.kyoto-u.ac.jp
 ホームページ：http://www.landscape.kais.kyoto-u.ac.jp/jila_w/annai.html

<大会会場案内図>

京都大学農学部総合館（北部構内）



農学部総合館拡大図



平成18年度 日本造園学会東北支部大会案内 大会テーマ「まちなかのみどり風景－都市公園・緑地・広場－」

標記の大会を下記の通り開催致します。会員各位多数のご参加をお待ちしております。また、造園学会員以外の方や学生の参加も歓迎いたします。

■開催月日：平成18年10月28日（土）～29日（日）

■開催場所：日本大学工学部（福島県郡山市）

■概要：

10月28日（土）

- ・総会
- ・基調講演 椰野良明（宮城県土木部交通建設局長）
- ・シンポジウム等
- ・交流会

10月29日（日）

- ・エクスカージョン

■問い合わせ先：

〒990-9530 山形市上桜田200 東北芸術工科大学内

日本造園学会東北支部事務局 温井 亨

TEL：023-627-2078 FAX：023-627-2252

*大会参加，エクスカージョン，交流会，全て事前申し込みは必要ありません。

平成18年6月26日

関係学会長各位

東京農業大学地域環境科学部
学部長駒村正治
(公印省略)

教員の公募について（依頼）

拝啓時下、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、このたび東京農業大学地域環境科学部造園科学科では、下記の要領にて教員の公募を行うことになりました。つきましては、ご多用中のところ誠に恐縮ですが、関係各位にご周知いただきたく、よろしくお取り計らいくださいますようお願い申し上げます。

敬具

記

1. 所属東京農業大学地域環境科学部造園科学科
2. 専門分野景観建設・技術分野（造園建設工学研究室）
3. 職名・採用人員 任期制※の教授または助教授・1名
※任期は5年。任期終了後、勤務状況等により専任教員として採用予定。
4. 専門分野の内容
造園科学科では、教育研究の分野を「環境計画・設計分野」、「ランドスケープ資源・植物分野」、「景観建設・技術分野」の三つで構成しています。今回の募集は、この内「景観建設・技術分野」において、造園工学の科目を柱とするランドスケープエンジニアリングの基礎から応用までの幅広い領域で研究及び教育に携わる人材を求めるものです。建築・土木を包括したランドスケープエンジニアリングに対応できる者を希望します。
詳細は本学ホームページ：<http://www.nodai.ac.jp/> を参照して下さい。
5. 職務内容
(1)学部担当科目：造園工学、公園施設設計、測量及びGIS、測量実習、卒業論文ほか
(2)大学院担当科目：造園工学特論、造園工学特論演習
6. 採用予定日平成19年4月1日
7. 応募資格
(1)博士の学位を有する者できれば実務経験もあり技術者資格（技術士、測量士、施工管理技士、建築士などのいずれか）をも有する者
(2)学生の技術教育に熱意のある者（当学科の卒業生には造園施工管理技士、土木施工管理技士、技術士（建設部門）等の技術者資格を得て活躍する人材が多い）
(3)必ずしも自身の専門のみならず建設・技術の基本を幅広く教育することに情熱を持てる者
(4)40歳～50歳代の者が望ましい
8. 提出書類
(1)履歴書1部
(2)学位業績目録1部
a. 学術論文, b. 著書, c. 学位論文, d. 学会口頭発表, e. 調査・報告書, f. その他
(3)研究業績目録に記載した学術論文の別刷各1部（代表的な学術論文10編以内、コピー可）
(4)従前の研究活動の内容と今後の教育と研究に対する抱負（1,000字～2,000字程度）
9. 応募期限
平成18年9月19日（火）必着「教員応募」と朱書きし、簡易書留で送付して下さい。
10. 応募書類提出先および問い合わせ先
〒156-8502 東京都世田谷区桜ヶ丘1-1-1
東京農業大学地域環境科学部造園科学科
小林章
電話：03-5477-2440 FAX. 03-5477-2625
電子メール：shosan@nodai.ac.jp

以上

平成18年6月26日

関係学会長各位

東京農業大学地域環境科学部
学部長駒村正治
(公印省略)

教員の公募について（依頼）

拝啓時下、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、このたび東京農業大学地域環境科学部造園科学科では、下記の要領にて教員の公募を行うことになりました。つきましては、ご多用中のところ誠に恐縮ですが、関係各位にご周知いただきたく、よろしくお取り計らいくださいますようお願い申し上げます。敬具

記

1. 所属東京農業大学地域環境科学部造園科学科
2. 専門分野景観建設・技術分野
3. 職名・採用人員任期制※の助手・1名
※任期は5年。任期終了後、勤務状況等により専任教員として採用予定。
4. 専門分野の内容
造園科学科では、教育研究の分野を「環境計画・設計分野」、「ランドスケープ資源・植物分野」、「景観建設・技術分野」の三つで構成しています。今回の募集は、この内「景観建設・技術分野」において、建設技術を基礎としながら生きものを取り扱う、ランドスケープエンジニアリングの領域で研究及び教育に携わる人材を求めるものです。
詳細は本学ホームページ：<http://www.nodai.ac.jp/> を参照して下さい。
5. 職務内容
景観建設・技術分野の研究室において上記内容の教育・研究活動に従事し、さらに造園科学科の授業に関連する演習、実習科目の補助を行なう。
6. 採用予定日平成19年4月1日
7. 応募資格
 - (1)博士の学位を有する者
 - (2)技術教育・研究に熱意のある者（当学科の卒業生には造園施工管理技士，土木施工管理技士，技術士（建設部門）等の技術者資格を得て活躍する人材が多い）
 - (3)採用後は造園工学，測量実習などの担当も可能で，建築・土木の出身者であっても造園についての素養があり，農大の気風に魅力を感じる者
 - (4)30歳前後の者が望ましい
 - (5)短期間でも「ものづくり」に携わった経験があることが望ましい。
8. 提出書類
 - (1)履歴書1部
 - (2)学位業績目録1部
 - a. 学術論文，b. 著書，c. 学位論文，d. 学会口頭発表，e. 調査・報告書，f. その他
 - (3)研究業績目録に記載した学術論文の別刷各1部（代表的な学術論文5編以内，コピー可）
 - (4)従前の研究活動の内容と今後の教育と研究に対する抱負（1,000字～2,000字程度）
9. 応募期限
平成18年9月19日（火）必着「教員応募」と朱書きし，簡易書留で送付して下さい。
10. 応募書類提出先および問い合わせ先
〒156-8502 東京都世田谷区桜ヶ丘1-1-1
東京農業大学地域環境科学部造園科学科
小林章
電話：03-5477-2440 FAX. 03-5477-2625
電子メール：shosan@nodai.ac.jp

以上

近畿大学理工学部社会環境工学科 教員公募

1. 募集人員：助教授または講師 1名
2. 所 属：近畿大学理工学部社会環境工学科
3. 専門分野：建設生態系または建設リスク管理系分野
(社会環境に関する生物・生態系またはリスク管理系分野)
4. 担当科目：生物環境・地圏環境・環境設計演習・環境工学実験あるいは建設工学実験・実験道場・建設設計演習などの中から幾つかの科目が担当できること
5. 応募資格：(1)着任時に45才までの方
(2)博士（またはPh.D）の学位を持つ方
(3)心身が健康であり，教育・研究に熱心な方
(4)大学院担当教員として十分な研究業績を有する方
(5)大学の管理・運営に対して十分な能力と熱意のある方
6. 着任時期：平成19年4月1日
7. 選考方法：第1次選考：書類選考審査（結果は10月中旬に本人宛通知します）
第2次選考：書類審査後，面接およびセミナーを実施します
(選考日は，本人宛に通知します)
8. 提出書類：(1)履歴書（写真添付）【**本学部所定の様式**】
(2)研究業績集計表（著書，学術論文，国際会議録，講演発表論文，特許 などの業績）
【**本学部所定の様式**】
(3)研究業績書【**本学部所定の様式または任意の書式**】
(4)これまでの研究概要（A42000字以内 任意の書式）
(5)主要論文の別刷（5編 コピー可）
(6)学における今後の教育・研究に対する抱負（A42000字以内 任意の書式）
(7)推薦書（自薦も可），又は当方から応募者に関する問い合わせ可能な複数の方の連絡先
(8)連絡先（電話番号，Eメールアドレス）
(【**本学部所定の様式**】は近畿大学ホームページからダウンロードできます。)
9. 応募締切：平成18年9月15日（金）必着

書類提出先・問合せ先:

〒577-8502東大阪市小若江3-4-1 近畿大学理工学部社会環境工学科 学科長 米田昌弘

Tel.06-6721-2332内線4276 Fax.06-6730-1320 E-mail:yonedac@civileng.kindai.ac.jp

封筒の表に「教員応募書類在中」と朱書し，簡易書留で郵送願います。提出書類は返却しない場合がありますので予めご承知下さい。また改めて健康診断書，推薦書などの提出を御願います場合があります。

都市計画 (通巻260号) 平成18年 4月

〒102-0082 東京都千代田区一番町10番地
一番町ウエストビル 6階
(社)日本都市計画学会
TEL 03-3261-5407 FAX 03-3261-1874

特集：ユニバーサルデザインと共生社会

- 地図の中の風景 都市計画の醍醐味 福川裕一 1
まちづくり一期一会 門司港レトロと大谷幸夫先生 中野恒明 2
巻頭言 ユニバーサルデザインと共生社会 仙田 満 3

特集論文

- 「ユニバーサルデザインと共生社会」の編集にあたって 保井美樹・山崎美知子 4
まちにおけるユニバーサルデザインの展開 樗木 武 5
まちづくりに関わる、エキスパートとしてのユーザー 川内美彦 9
「福祉のまちづくり」からのユニバーサル社会へ～新しい福祉法(次世代育成支援対策推進法、障害者自立支援法)との関連で～ 石渡和実 13
ユニバーサルデザインまちづくりの効果とその課題 清水浩志郎 17
働き方のユニバーサル・デザインと社会起業～ソーシャルインクルージョンが地域社会を再生する～ 細内信孝・木村政希 21
超高齢社会とユニバーサルデザイン 古瀬 敏 28
公園におけるユニバーサルデザイン：スティグマのない緑空間 浅野房世 32
地域にとっての移手段の価値 京都・醍醐コミュニティバス 中川 大 38
ユニバーサルデザインの視点によるサイン計画－五感を活用する環境サインの試み 田中直人 40
タウンモビリティとユニバーサルデザイン～ソフト、ハード両面で人と人、まちと人をつなぐ～ 白石正明 42
トイレはユニバーサルデザインまちづくりの生命線 山本耕平 44
弓ヶ浜公園みんなの遊具広場 バリアフリーからユニバーサルデザインへ 山田津八百 46
ゴジカラ村桃源記～ほどほど横丁と多世代交流自然村 不便で手間隙かかって煩わしくて思うようにならない暮らしもユニバーサル 遠藤 学 48
UDビーチ「浜から街へ」 確信犯の見切り発

- 車からの意外な迷走 足立正俊 50
商業施設のユニバーサルデザインとその効果 すべてのお客さまが快適に過ごせる施設を目指して 三宅 茂 52
言葉・生活習慣・文化の壁をこえて～四日市市国際共生サロン～ 板倉 篤 54
高齢者を元気にする葉っぱビジネスの成功！ 星場真人 56
自治・福祉・防災をつないで創る住民参加型ユニバーサルデザイン 高瀬博章 58
[特集コラム] ユニバーサルデザインは大きな絵 曾川 大 60
「ユニバーサルデザインと共生社会」総括 後藤春彦 62
旬な人 輝く人 市民が主役のまちづくりへ これからの武蔵野市 邑上守正 64
プロジェクトノート 連節バスと支線バスによる交通ネットワークとITSの活用 藤沢市計画建築部 70
情報バリアフリー実証実験(高山市の事例) 蟹井 進 72
都市計画行政の最近の動き 「住生活基本法案」について 加藤 永 74
元気ががんばるまちづくりNPO ユニバーサルデザインと共生社会 NPOリスト 編集委員会 78
海外特派員だより スコットランドの土地改革：地域コミュニティによる土地の共有財化 村上佳代 82
ニューヨーク市交通職員ストライキに見た米国政策の現状 河井容子 83
ドバイの都市開発事情 佐々木英之 84

都市計画 (通巻261号) 平成18年 6月

特集：大規模土地利用転換と都市計画

- 地図の中の風景 人と歴史と空間と 土肥博至 1
まちづくり一期一会 一期一会 蓑原 敬 2
巻頭言 今後のまちづくり・都市計画 黒川 洸 3
特集論文
「大規模土地利用転換と都市計画」の編集にあたって 松山 明・横田雅幸 4
[特集座談会] 大規模土地利用転換と都市計画

- 高見澤邦郎・岸井隆幸・中井検裕・渡会清治 5
 成熟社会の新しい都市計画システムを考える
 ～大規模土地利用転換に対する都市計画の役割
 を考える前提として 高見沢実 13
 都市計画制度における時間軸の管理システム
 ～大規模土地利用転換と交通インフラ整備の整
 合性を目指して 森本章倫 17
 大規模土地取引行為と土地利用構想の審査・協
 議のシステム 府中市地域まちづくり条例に基
 づくトライアル 野澤 康 21
 周辺環境と調和した土地利用への誘導－「土地
 利用基本条例」・「土地利用基本計画」－
 出石 稔 25
 土地利用転換に果たす自治体都市計画の行政の
 役割－京都市の土地利用の調整に関わるまちづ
 くり条例の場合（土地利用構想の事前届出制度）
 宗田好史 29
 大規模土地利用転換のダイナミズム 渡会清治 33
 民間開発による大規模土地利用転換
 ～豊洲1～3丁目地区再開発（TOYOSU Project）
 の事例～ 大村慎二郎 37
 大規模土地利用転換における都市機構の役割
 （桃井三丁目地区の防災公園） 室橋秀辰 41
 大阪駅北地区（北梅田）の開発について
 安藤友昭 45
 プロジェクトノート
 国内外を結ぶ新たな広域交流拠点 新北九州空
 港がオープン 国土交通省九州地方整備局 52
 都市再生コーディネートの実践「川口並木元町
 地区（リボンシティ）の試み」
 （独）都市再生機構埼玉地域支社 54
 都市計画行政の最近の動き
 都市計画法等の一部改正について 東 智徳 56
 中心市街地活性化法の改正について 渡邊浩司 59
 元気ががんばるまちづくりNPO
 特定非営利活動法人 まちづくり支援・東京ラ
 ンポ 辻 利夫 62
 特定非営利活動法人 しょうまち ～地域安全
 マップから防災まちづくりへ 樋野公宏 64
 書籍探訪・新刊レビュー 情報委員会 66
 追悼
 自然体の研究者・計画者 早川文夫先生を悼む
 ／早川先生の業績とお人柄 5
 水谷達郎・佐藤圭二 68
 海外特派員だより
 ソチアーレ シュタット／エバーシュタット南
 団地 春日井道彦 71
 ニューアーバニズム委員会総会 佐々木宏幸 72
 カンボジア・アンコール地域農村における自立
 型発展の新たな試み 小出陽子 73
 農村計画学会誌 2006.3 VOL.24 No.4
 〒153-0064 東京都目黒区下目黒3-9-13
 （目黒・炭やビル）
 （財）農林統計協会内
 農村計画学会
 TEL 03-3492-2988
 総説
 参画時代の地域づくり 輿水 肇 223
 報告
 千葉市域の谷津の一体的保全に向けたGISによ
 る自然環境の資質分析と評価
 高橋耕一・田野倉直子・趙 賢一・大塚生美 227
 農業者の視点からみた野生生物保護－豊岡市コ
 ウノトリの野生復帰を事例に－
 本田裕子・山路永司 237
 岡山県八塔寺ふるさと村の課題と展開方向－グ
 リーン・ツーリズム開発地区の課題と再生方策
 に関する事例的考察－ 真鍋奈津子・星野 敏 245
 学校給食での地場食材導入システムの形成条件
 について－農村地域における自校調理方式の事
 例より－ 山田浩子・今井 健 254
 活動報告
 農村計画学会2005年度秋期シンポジウム「地震
 災害と農村計画」 261
 平成17年度農村計画研修会－第27回農村計画研
 究部会現地研修集会－について
 農業土木学会農村計画研究部会 270
 まちづくりむらづくり
 韓国における都市農村交流の実態と特徴－江原
 道華川郡を事例として－
 劉 鶴烈・宋 美玲・崔 秀明・千賀裕太郎 272
 研究の新風
 人口減少社会の農村計画 林 直樹 276
 キーワード紹介
 ㊦「ゲーミング・シミュレーション」 山本徳司 277

日本緑化工学会誌 第31巻第4号 2006年5月

〒156-0054 東京都世田谷区桜丘1-1-1
東京農業大学林学科緑化学研究室内
日本緑化工学会
TEL 03-5477-2275

特集「積雪寒冷地における緑化工技術の現状と課題
(I)」

積雪寒冷地緑化研究部会のあゆみと今後のあり
方 土谷富士夫 419

ふるさとの荒地を緑に－自然と調和をめざす
植生回復の技術－ 村井 宏 425

寒冷小雪地域における斜面保全と緑化工技術の
問題点 宗岡寿美 429

論文

伝統的建築材料土漆喰を用いた新しい緑化基盤
「土漆喰植栽柵」の開発

伊藤啓太郎・谷山暁進・玉泉幸一郎
原田 進・高木正三郎 431

中国内蒙古自治区に生育する臭柏 (*Sabina vulg-*
aris Ant.) の個体サイズにともなう光合成能力
と葉の特性の変化

田中憲蔵・小田あゆみ・増田寛子
二宮生夫・王 林和・吉川 賢 436

技術報告

表土シードバンクを吹付けに活用した施行事例
(Ⅲ)－のり面中央部と林縁部の侵入木本種の
相違について－ 小畑秀弘・中村 剛 441

博士学位論文紹介
都市化が二次林植生に及ぼす影響とその緩和手
法に関する研究 根本 淳 445

水辺エコトーン創出におけるスゲ属植物の機能
の評価 辻 盛生 447

コラム
緑化植物 ど・こ・ま・で・き・わ・め・る

オトコヨモギ 449
アツバキミガヨラン 450

グリーン・エージ 2006/4月号 No.388号

〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-13
(財)日本緑化センター
TEL 03-3585-3561

今日の課題・都市環境と緑 渡辺達三 2
都市環境における緑の果たす役割 山田宏之 4

「風の道」を使ったヒートアイランド対策

堀越哲美 9

樹木・森林の二酸化炭素吸収・固定量の謎/研
究の現状 石塚森吉 19

都市における植物の蒸散による夏期温熱改善力
野島義照 19

京都議定書と都市緑地 加藤順子 25
根の系譜〈7〉

松中の大根を去りて、四辺の髯根を留める
苜住 昇 35

森林余話〈2〉収益林政から国土美化林政へ
筒井迪夫 40

平成18年度林野庁一般会計予算の概要 林野庁 42
平成18年度都市公園・緑地保全等事業予算と新

規施策 国土交通省 48

グリーン・エージ 2006/5月号 No.389号

今日の課題・人と自然のふれあいを目指して
岡島成行 2

里山とは－里山の現状と課題 広木詔三 4
市民参加の里山作りと未来 中川重年 8

里山での環境学習のあり方 佐藤陽平 12
グリーンエッセイ・里山文化考 内山 節 16

里山暮らしを楽しむ、里山クラブどんごろす
幸山昌生 19

「飲水資源」里山を守る森林塾青水 清水英毅 23
随想・花によせる心－竹 安達瞳子 30

第17回「みどり感謝祭」盛大に開かれる
根の系譜〈8〉

樹を移す時無し、樹に知らしむる勿れ
苜住 昇 34

平成18年度事業計画が決まる
切手が語る〈29〉世界の樹木⑩リュウケツジュ

羽賀正雄 29

第17回「みどりの感謝祭」アルプホルンにつつ
まれて 11

グリーン・エージ 2006/6月号 No.390号

今日の課題・ほんとうに美しい風景づくり
進士五十八 2

花と緑のまちづくりの望ましい展開と課題
藤岡作太郎 4

花と緑におけるオープンガーデンの活用と課題
相田 明 9

特定非営利活動法人 日本公開庭園機構	98	黒鳥昭夫	11
④新たな情報発信基地をめざして－首都圏みどり系大学サテライト講座の開設－		・自然公園内に設置されている公共駐車場の利用状況	森 孝順 14
財団法人 東京都公園協会		国立公園絵画を巡る物語 (三)	瀬田信哉 18
緑と水の市民カレッジ	101	第54回自然公園写真コンクール入選発表	22
行政資料		市町村合併により消失した国立公園所在町村長へのアンケート	26
①平成18年度都市公園・緑地保全等事業予算の概要について		レンジャー便り (洞爺)	木住野泰明 33
国土交通省都市地域整備局公園緑地課	103	海外の公園事情	
②第三次公園・緑化技術五箇年計画について		⑳アルゼンチン「ナウエル・ウァップ国立公園」	城殿 博 34
国土交通省都市地域整備局公園緑地課	113	国定公園から	
国立公園 2006年4月号 No.642		第32回・室戸阿南海岸「室戸阿南海岸国定公園について」	平井孝憲 36
〒105-0001 東京都港区虎ノ門2-8-1 (財)国立公園協会 TEL 03-3502-0488		国立公園 2006年6月号 No.644	
巻頭エッセイに代えて	瀬田信哉 2	巻頭エッセイ (第34回)	
特集:吉野熊野国立公園指定70周年		想いをつなぐ、自然をつなぐ、命をつなぐ	溝口薫平 2
・自然保護の砦としての国立公園－吉野熊野国立公園の指定運動を振り返る－	村申仁三郎 4	特集:変遷する入山料	
・南海の果ての祈りの地－紀伊半島と吉野熊野国立公園の七〇年－	小沢晴司 8	・江戸時代の富士登山から考える	
・日本の心の源流 世界遺産「吉野山」	福井良盟 12	・乗鞍山麓五色ヶ原の森の取組み	大平俊次 8
・大台ヶ原－冷温帯超多雨林の再生と「利用」－	長嶋俊介 18	・座談会:10年目に入った自然ふれあい舎の旅 (前編)	12
国立公園絵画を巡る物語 (二)	瀬田信哉 22	国立公園の入園料について	田村 剛 19
海外の公園事情		国立公園絵画を巡る物語 (四)	瀬田信哉 20
③アメリカ「レッドウッド国立州立公園」	鈴木 渉 26	海外の公園事情	
国定公園から		㉑タイ「カオヤイ国立公園」	西宮 洋 24
第31回・網走「網走国定公園の植生回復対策について」	間所一公 28	国定公園から	
レンジャー便り (裏磐梯)	齋藤祐介 32	第33回・八ヶ岳中信高原「美ヶ原高原における自然再生事業について」	津田拓也・尾関雅章 26
国立公園 2006年5月号 No.643		レンジャー便り (西表)	野村 環 30
巻頭エッセイ (第33回)		造園修景 (No.97) 平成18年6月	
昨今エコツアーの事情さまざま	日下田紀三 2	〒102-0093 東京都千代田区平河町2-15-17 堀ビル201 (財)日本造園修景協会 TEL 03-3262-5730	
特集:自然公園の利用者調べ		巻頭言 景をつくり、育てる	西川嘉輝
・自然公園等利用者数調について	4	特集 国営昭和記念公園「みどりの文化ゾーン」	
・都市近郊型自然公園の利用実態－明治の森高尾国定公園利用動態調査の結果から－	6	オープン	1～7
・休暇村の利用状況と利用促進の取組み		造園修景の旅 (埼玉県)	8～12
		協会の動き	13～15

本部便り	13	都市緑化技術 (No.59) 2005. AUTUMN	
支部便り	14~15	〒105-0001 東京都港区虎ノ門1丁目21番8号 秀和第三虎ノ門ビル3F (財)都市緑化技術開発機構 TEL 03-3593-9351	
都市公園 第172号 平成18年3月			
〒160-0022 東京都新宿区新宿6-13-10 (財)東京都市公園協会 TEL 03-3359-9281		都市緑化植物図譜 ³⁴ 良薬口に苦しーアロエー	3
ごあいさつ		都市緑化技術グラフィティ ガーデンシティと植物資源を探る旅~シンガポール・マレーシア (ボルネオ島)	4
創刊50周年を祝してー専門雑誌「都市公園」の果たす役割	山下保博 2	花を飾ろう 香りの花	4
特集「都市公園」発刊50年		巻頭言 技術研究の効率的効果的推進とアーカイブの充実	5
「都市公園」発刊50年についてー「都市公園」と公園緑地行政	伊藤精美 4	特集 第三次公園・緑化技術五箇年計画	
創刊当時の思い出	北村信正 6	公園・緑化分野における技術開発の方向性	
「都市公園」の名編集長ー前島康彦氏を偲ぶ	加藤雍太郎 8	第三次公園・緑化技術五箇年計画の概要及び取り組みの重点	9
東京の都市公園事業等の変遷ー戦後の変遷と今後の課題ー	樋渡達也 10	「環境」分野における技術開発の現状と展望	
公園緑地に関する50年ー「都市公園」に掲載された写真よりー	事務局 30	公園・緑化技術五箇年計画暮らし・安全部会現	
東京都公園協会賞 受賞者の今		状報告	20
豊かな心が「みどり」を育む	萩原信弘 48	「活力」分野における技術開発の現状と今後の展望	23
研究の原点	亀山 章 50	国土技術政策総合研究所における取り組みの現状	
あっと、言う間の40年	井上忠佳 52	東京都における緑化技術に関する研究の現状	31
今も変わらない思いとともに	小林 明 54	大阪府の都市緑化技術研究における二つの取り組み	34
官民協働による公園緑地の確保と活用	浦田啓充 56	民間における都市緑化技術への取り組みの現状	36
公園づくりの「ものさし(価値観)」…実現したのは、豊かなパークライフ	菅 博嗣 58	環境療法からみた日本の四季と緑化ー癒しのト	
私の「みどり」の視点	真鍋由紀子 60	ポストと精神のエコロジーー	43
都立公園等における指定管理者制度導入についてー公募から決定、管理開始まで	片山 謙 62	●第24回海外研究調査報告	
コラム:「都市公園」発刊50年によせて	樋渡達也 72	シンガポールの都市緑化と東マレーシアの植生概観	45
これからの公園運営ー都立公園指定管理者として	松井映樹・山崎照展 73	●投稿	
〈まちの木〉「蒲鉾」の森林浴~スギ~	80	イギリスにおける屋上緑化の取り組みについて	49
リレーコラム:市民緑化活動を継続していくには	81	●技術開発基金による調査研究助成	
世界の庭園と、公園とー第16回素晴らしい噴水群ー	82	駐車場緑化工法に関する基礎的研究	55
		みどり人間	59
		新・都市探訪 茨城県 つくばエクスプレスと一体化した沿線のまちづくり	60

最前線技術レポート 剪定枝葉を1週間で堆肥化～ボカシ堆肥～	荻野淳司	62	ニュープランツ ツキヌキニドウ／ボケ	川上幸男	44
まちの話題ウォッチング 緑豊かな社会への企業行動を評価－社会・環境貢献緑地評価システム－(SEGESシージェス)勸都市緑化基金		64	現地リポート 高速道路を守る防雪林		46
地球時代の視点から			話題情報 道路環境行政に関する最近の話題	小池昭広	48
(株)日比谷アメニス・(株)アルファ計画研究所		66	平成18年度環境省自然環境局予算の概要		
研究ノート 壁面緑化の都市環境改善効果に関する測定調査の手法	藤田知己	68	環境省自然環境局		49

道路と自然 平成18年春号 第131号第33巻第3号

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3-7-2
大東ビル
(社)道路緑化保全協会
TEL 03-3504-0311

論説 棲み分け	佐野藤右衛門	2
展望 新高速道路会社の環境・景観・緑化の展望		
高速道路に「華」を添えて	八木重二郎	4
安全と環境は妥協しない	近藤 剛	5
お客様、地域に愛される高速道路を目指して		
	石田 孝	6
官から民へ－首都高の場合	長谷川康司	7
「自然景観の回廊」に思う	田中 宰	8
瀬戸内の景観を保つ	堀切民喜	9
特集 特集「SA・PA・道の駅」(その2)		11
東北－国道47号線 大崎市岩出山 池月「あ・ら・伊達な道の駅」	林 伸一	12
北陸－道の駅「豊栄」	高橋淳浩	14
中部－刈谷ハイウェイオアシスと刈谷PA		
	加藤 齊・若松洋介	16
中国・四国－海、山、自然を満喫できるSA・道の駅	土橋和久・益田昌昭	18
九州・沖縄－九州・沖縄のSA・PA・道の駅		
	藤原辰也	20
心に映る道の風景 第4の生活技術	井上義之	22
緑化紹介 圏央道日の出～あきる野間における緑化および自然環境保全対策		
	宇治正人・原 雅之	26
随筆 里山に学ぶ	柳生 博	30
研究紹介 花のまちづくりによる沿線緑化への取り組み実態と意識・評価	野中勝利	32
海外レポート		
2005生態復元学会世界大会報告	李 宙嘗	38
日中技術交流の報告	邢 健	41

1. 支柱と植え樹が街路樹の幹形に及ぼす影響

山本直樹（神奈川県立吉田島農林高等学校）
吉田祐子・八木健太（千代田農園）
内田 均（東京農業大学短期大学部）
堀 大才（NPO法人 樹木生態研究会）

本研究は、東京農業大学周辺半径1.5km以内に植栽された街路樹10種1,096本を対象に、支柱と植え樹が街路樹の幹形と樹冠の成長に及ぼす影響を明らかにした。通常幹は下方が太く上方が細くなるが、調査の結果、長期間施したままの支柱の接触部分より上方が顕著に太くなるものが認められた。また、街路樹の幹直径は、道路の平行方向のほうが、直交方向よりも大きくなるものが多く、さらに植え樹の形によっても成長度合の違いが見られた。つまり、支柱や植え樹の形が樹木の生育に影響を与えていることが判明した。この幹の変形は幹折れ等を誘発する可能性もある。

2. 屋上緑化に導入した新たな手法・技術の評価について

近藤三雄・佐藤健二・高橋新平・水庭千鶴子

3. 光触媒処理した観葉植物によるホルムアルデヒドの除去効果の可能性に関する研究

脇村和子（森六株式会社）
申 恵京（東京農業大学大学院農学研究科）
水庭千鶴子・近藤 三雄
（東京農業大学造園科学科）

近年、室内の空気浄化を狙い、光触媒処理したイミテーショングリーンが出回るようになった。そこで、観葉植物と光触媒処理した観葉植物との空気浄化率を明らかにすることを目的とした実験を行なった。デシケータ内のホルムアルデヒドの濃度減少を調べ、実験開始時と比べて除去率を求めた。ホルムアルデヒドの除去率が最も高かったのはベンジャミン区の90.23%であり、次いで、光触媒されたイミテーション区の75.5%、ゴムノキ区の70.59%であった。同じベンジャミンやゴムノキでも光触媒処理した実験区は除去率がむしろ10~40%低下する結果を示した。なお、光触媒処理をしたものにさらに紫外線を照射した区は除去率が5~10%高くなることが明らかとなった。

4. 数値地図を用いた社叢の立地と地形との関係把握の有効性に関する研究

藤田直子・熊谷洋一
（東京大学大学院新領域創成科学研究科）

数値地図5mメッシュ（標高）を用いて、東京都23区部における社叢の立地と地形との関係性を明らかにすることが本研究の目的である。東京都区部のように山地と比べて起伏が乏しく狭い範囲を対象とする場合でも、数値地図5mメッシュ（標高）を用いて分析を行うことで、その差を有意に抽出することが可能であることを明らかにした。また、社叢抽出の際に発生した数値情報の限界を指摘し、空間情報の取得に対するaddress matchingの有効性を示した。

5. 大学キャンパスを中心とした地域の評価ツールの開発と検討

菊池佐智子（明治大学大学院農学研究科）
輿水 肇（明治大学農学部）

既存の環境評価ツールCSA（Community Sustainability Assessment）をもとに、「大学と地域の交流・連携の評価ツールCREPA（College Campus Regions Exchange Partnership Assessment）」を作成し、ツールの適用とその検証を行った。その結果、想定した地域の環境、コミュニティ、文化・知的活動を把握・評価することができた。今後の課題として、設問数、対象地域の範囲、参加者に対し共通のコミュニティ、文化・知的活動をイメージさせる設問や選択肢の検討が残された。

6. 市街地におけるグラフィティ行動の実態と特性に関する研究

大塚祐介・葉山嘉一（日本大学生物資源科学部）
グラフィティはわが国では落書きとして否定的に捉えられ、その取り扱いが苦慮される存在である。しかし海外ではサブカルチャーのアートとして評価され鑑賞対象として認識される場合もある。本研究はグラフィティの取り扱いについて検討するための基礎資料を得ることを目的として、神奈川県藤沢市の3箇所駅周辺を対象として、実態調査を行った。その結果、グラフィティの分布は駅を中心とした距離に影響されること。駅の乗降客数に正比例してグラフィティ箇所が増加すること。幹線道路より鉄道

沿線で多いことなど、視認頻度の高い場所に集中する傾向があることが明らかとなった。

7. アメリカの動物園における生態的展示の実例報告

小林和博（日本大学大学院生物資源科学研究科）
葉山嘉一・吉田博宣（日本大学生物資源科学部）

アメリカの動物園では、1977年に開設されたプロンクス動物園における温帯落葉樹林地帯の展示の誕生以降、生態的展示の概念に基づいた展示が主流となっている。本報告では、その生態的展示が現在どのように取り組まれているのかその実態を明らかにするため、実地踏査を行った4動物園でのケーススタディとして明らかにすることとした。その結果、アメリカでの生態的展示は、画一的な施設計画を行うのではなく、各園で特徴的なストーリー、テーマなどが用意され、それにより展示に特徴を持たせていた。以上のことからアメリカの動物園における生態的展示は多様な展開をしていることを確認することができた。

8. 長岡安平の庭園設計に関する考察

富田修平・服部 勉

9. 建築家吉田五十八と造園

馬場菜生・鈴木 誠

10. イサム・ノグチの慶應義塾大学第二研究室（萬来舎）庭園（1950-51）の製作過程とデザインについて

田井洋子（信州大学大学院農学研究科）

イサム・ノグチは東洋と西洋の狭間で生き、単体彫刻のみならず、空間彫刻としての庭園やランドスケープを制作したアーティストである。1950年に2度目の来日をし、桂離宮、銀閣寺、龍安寺など日本庭園を見、空間彫刻への大きなヒントを得たことが、伝統的日本庭園を発想のベースとした空間作品＝庭園の制作へとつながった。慶應義塾大学萬来舎庭園はこうした影響を受けた後に、日本で設計に携わった初めての庭園であり、父・野口米次郎の記念として、また詩仙堂のように人々が集い安らぐ空間として、建築家谷口吉郎との協働制作をへて、実現しようとしたものである。主にこの製作過程とデザインを

明らかにした。

11. 短歌にみる日本人の景観に対する意識構造

出店暁美・福岡孝純

12. 数種樹木における蒸散速度の日変化および季節変化について

館あゆみ・藤崎健一郎

（日本大学大学院生物資源科学研究科）

勝野武彦（日本大学生物資源科学部）

常緑樹のクスノキ (*Cinnamomum camphora* (L.) Sieb.)、ヤマモモ (*Myrica rubra* Sieb. et Zucc.)、落葉樹のカリン (*Chaenomeles sinensis* (Thouin) Koehne)、シダレザクラ (*Prunus itosakura* Sieb.) の4種5個体を対象とし、皮膚蒸散量測定装置を用いた蒸散速度の測定を行い、日変化および季節変化を調べた。春季や秋季、冬季では夏季に比べ蒸散が盛んであった。日変化では大きく2パターンを確認することができ、このパターンは日及び季節によって、また同一日の測定であっても樹種によって異なった。

13. 配植の雰囲気と樹木群の形態に関する研究

高橋佐世子・根本正之・濱野周泰

14. 木質チップ敷設による効果に関する研究

鎌田優希（日本大学大学院生物資源科学研究科）

笹田勝寛（日本大学生物資源科学部）

島田正文（日本大学短期大学部）

荻野 淳（アゴラ造園株式会社）

有機性廃棄物の利用は、現代社会における重要な課題であり、平成12年には改正廃棄物処理法により廃棄物の減量化および焼却の禁止にむけた法的な整備もなされた。こうした中、都市公園などで管理上多量に発生する剪定枝葉の循環利用の一つとして、剪定枝葉をチップ状に粉碎し利用する方法が、都市部の公園等で採用され、各種の効果について報告もなされている。しかし、木質チップの敷設により期待される効果の仕組みについて、多方面から科学的データに基づく検証が十分とはいえない。本研究では木質チップ敷設による各種の効果について明らかにするために、各種の試験を行った。土壌化が促進され、敷設厚が減少し、腐食の供給がなされ多種の

植生へと繋がったものと考えられる。広葉樹敷設は土壌動物の格好の棲家となり、腐食の形成に大きく関与すると考えられ、土壌改良材などへの期待が高まる。一方、針葉樹敷設区では、抑草効果が期待できると思われる。現在では、チップを樹種や部位別に分けて処理する方法はなされていない。しかし、樹種によってチップ敷設によりチップ敷設により期待できる効果は差があることがわかった。

15. 荒川流域におけるエコロジカルネットワーク計画手法についての検討事例

高橋 衛・川池芽美 (財日本生態系協会)

荒川流域においてモデル地域を設定し、指標種によるエコロジカルネットワークの計画手法を検討した。荒川流域は、台地丘陵地と荒川が流れる低地に大きく区分することができ、台地丘陵地は高次消費者のオオタカの繁殖地を基準とし、低地はカモ類の越冬地を基準として重要地域を選定しコアエリアを配置した。また、コリドーについては当該地域に生息する高次消費者のキツネが移動できる距離内に設定した。計画手法の検討に当たっては、重要地域を選定するための生態系の質的評価に有用な知見やデータの不足が顕著であり、ハビタットモデルによる生息地評価が有用と考えられた。

16. 都市河川周辺の緑地の変遷と地上徘徊性動物イタチの生息状況

岡田昌也 (日本大学大学院生物資源科学研究科)
勝野武彦 (日本大学生物資源科学部)

本研究は、神奈川県東部を流下する柏尾川、境川、引地川、小出川、目久尻川流域を対象として、緑地の変遷を辿ると共に地上徘徊性動物イタチの生息状況を捉えた。1974年の時点で、市街化は横浜市戸塚区、町田市、藤沢市、茅ヶ崎市を中心として進行しており、宅地、商業・工業地の土地利用の割合は流域の半分近くまで上っていた。この様な人為的影響の大きい場所ではイタチは殆ど生息が確認されず、現在、当流域の市街化区域内には生息地はほとんど無いと思われる。イタチの生息確認地点は殆ど水田や河川敷といった水辺にあった事から、頻りに河川周辺域の緑地空間を利用している事が考えられる。

17. チョウゲンボウの採餌による河川緑地利用

今井絢子・金 清翔・葉山嘉一・勝野武彦

18. 都市河川におけるミズキンバイ群落の存立特性および経年変化

緒方秀仁・大澤啓志・勝野武彦

19. アズマネザサの管理形態の違いが鳥類に及ぼす影響について

吉田元臣・葉山嘉一 (日本大学生物資源科学部)

里山林の植生管理では、林床の低木やササを除去すると植被率が減少する反面、植物種数が増加するとされている。しかし、こうした植生管理が動物種に与える影響については研究事例が少ない。そこで、本研究は、神奈川県立自然保全センター内の落葉広葉樹において、林床管理方法が異なる約15m×20mの4区画を(無管理区、縞状管理区、全刈り区、毎年管理区)設定し、林床のアズマネザサ管理形態の相違が、鳥類の生息に与える影響を明らかにすることを目的とした。その結果、主に中層以下を利用する種は、利用空間が重高木層寄りに変化する可能性があり、主に中層以上を利用する種は管理形態の違いによる影響を受けない可能性が示唆された。

20. 県立座間谷戸山公園における里山二次林の管理と植生の変化

岩田朋子・吉田博宣

21. 棚田畦畔における植生管理形態の差異と直翅目の関係

浅田大輔・小島仁志
(日本大学大学院生物資源科学研究科)
勝野武彦 (日本大学生物資源科学部)

草地環境の変化を受けやすい直翅目を対象に棚田畦畔も植生管理及び現在棚田保全の主流となりつつあるオーナー制度との関係について調査を行った。大山千枚田の年間の定期的な草刈作業により、多様な草地環境が形成されており、草地性、湿地性、林縁性など6科29種の直翅目の生息が確認され、調査地である大山千枚田の直翅目の種組成が把握された。また、定期的な草刈が行われている場所では低茎草地を好む種に好適な条件となり、管理が行われずに草丈の高い草本が優占する場所では低茎草地種や湿性草地種の個体数密度が減少し、林縁性の種の

個体数密度が高くなったことから草刈管理の停止は林縁性種の好適な環境となると考えられる。

22. 棚田保全地における大学生が参画する自然体験イベントについて

小島仁志・葉山嘉一・勝野武彦

23. 国営公園を利用した環境教育の現状と課題

佐藤亜紀（日本大学大学院生物資源科学研究科）
・勝野武彦（日本大学生物資源科学部）

埼玉県の国営武蔵丘陵森林公園を事例地とし、実施されている環境教育プログラムの現況を分析し、課題を明らかにした。実施内容としては、ゲームとクラフトなど2つ以上のプログラムを組み合わせた複合型プログラムが年々増加していること、また、オリエンテーリングやクラフト、ゲームなど参加体験型のプログラムが多く実施されているという特徴が挙げられた。実施場所については、特定の年齢のみが利用している場所があるといった課題が明らかになった。そこで、今後は、環境教育施設として利用する際の選定理由や施設へのニーズを明らかにしていく必要があると考えられる。

24. 「子ども樹木博士」を体験した児童の自然に対する意識の変化に関する研究

荻野 淳司（NPO法人みどり環境ネットワーク！）
勝野 貴子

当NPOでは自然に興味を持ってもらおうと、「子ども樹木博士」というプログラムを設立当初から実施している。子どもたちが樹木や自然に興味を持ったか、意識がどう変わったかをまとめ、今後のプログラム充実への課題を見出すためアンケートを行っている。それらのアンケートをまとめた結果、「子ども樹木博士」を受けた多くの子ども達は、自然に興味を持つようになり、何人かの子ども達は「子ども樹木博士」を受けた後、実際に身近な自然の中で遊ぶようになったことが分かった。また、何回も参加することで、今度こそはいい点数を取りたいと勉強するようになり、更に知識が深まっていることが分かった。

25. 参加者の動植物の捉え方からみる「生き物図鑑」づくりワークショップの効果について

乗松千恵・嶋野弥名子（東京ガス環境エネルギー館）

横浜市鶴見区の東京ガス環境エネルギー館では、インタープリターがプログラムを実施し、屋上ビオトープを環境教育のフィールドとして活用している。小学生以上を対象に、屋上ビオトープで動植物を観察、2階環境情報センターの書籍で種名や生態などを詳しく調べ、オリジナルの図鑑シートを完成させる「生き物図鑑」づくりワークショップを行っている。この記入内容を見ると、繰り返し参加することで、動植物の生態への理解が深まっていることがわかった。当館では屋上ビオトープを教育的に活用していくことで、より地域住民や市民にもビオトープの設置意義や、その重要性を理解してもらうことができるのではないかと考えている。今後とも、さまざまな活動を通して、あらゆる年齢層に対し、よりよい“場”を提供し続けたい。

26. プレイパークにおける職業としてのプレイリーダーの研究

青山雅美（生活協同組合東京マイコープ）
荒井 歩・福岡孝純
（東京農業大学地域環境科学部）

本研究では、プレイパーク活動団体とプレイリーダーの雇用面における関係を整理するため、プレイパークのプレイリーダー雇用実態を費用の面から明らかにし、プレイリーダーに類似する他の職業の給与及び待遇の比較を行った。結果、プレイパーク運営予算の獲得先は多様化しており、年間予算額も50万円以下の団体から450万円以上の団体まで幅が見られた。プレイリーダーに金銭的支給を行う団体は、全体の約7割と多い状態にあるが、その雇用形態や給与設定にはばらつきがあった。また、プレイリーダーの件数と開園日数は正の相関関係にあり、金銭的支給に裏付けられたプレイリーダーの安定雇用は開園日数の増加につながっていた。なお、プレイリーダーが担う仕事内容は、「有償ボランティア」よりも「職業」雇用のほうが多岐にわたっていた。しかし、その給与体系を類似施設の職員と比較したところ、プレイパーク常勤職員としてのプレイリーダーは、定期的な昇給を伴っていなかった。

27. 青南幼稚園園庭遊具計画における保護者、教員の評価

仙田 考（環境デザイン研究所）

桑原淳司（日本大学芸術学部）

幼稚園が設計に協力し実践された、大学生設計演習による試験的園庭遊具制作での、アンケート調査による保護者・教員の評価を通して、園児・保護者・教員及び学生への効果の検証を行った。その結果、園児に対しては、学生との交流機会の重要性、遊具制作過程を学ぶ重要性、園庭改善への行動変化、遊びの変化、社会性の発達。保護者・教員に対しては、学生参加による園の活気の向上、園参加のプロセスの重要性、園庭の魅力向上、遊具安全性・耐久性の重要性、今後の園庭改善への意欲、学生への感謝と今後への期待。また学生に対し、園と交流することの重要性、子どものあそび環境設計への配慮や視点の変化等の傾向が示された。

28. 建替団地におけるグリーンバンクシステムに対する居住者意識

小木曾 裕（独立行政法人都市再生機構）

既存樹木利活用のグリーンバンク手法で行った建替の武蔵野緑町団地の居住者にグリーンバンクの意識調査を行った。これは建替のグリーンバンクの評価の視点を探り、既存樹木を活用した計画、設計の基礎となるグリーンバンク活用の方向性を明らかにすることを目的とした。その結果、居住者の9割以上がグリーンバンクの取り組みを良いと評価するとともに、実際に保存移植された樹木や伐採木の再利用についても9割以上の方が良いと評価している。今後も9割以上が継続することが良いと考えていることもわかった。グリーンバンクの認知は6割であったが、認知を上げるには様々な手段による継続的な情報発信が必要であることも示唆された。

29. 湘南海岸公園東部地区（海洋総合文化ゾーン）における、PFI事業について

辻本 明

30. 日光国立公園尾瀬地域における利用者の分類と利用施策への反応に関する研究

金子良知夫・麻生 恵

31. イングランドのフットパスにおけるスタイル設置の意義と役割

荒井 歩（東京農工大学地域環境科学部）

荒井清児（フリーランス）

本研究は歩行に伴う景観体験に影響を与えると思われる歩行環境構成要素の基礎的データを得ることを目的とする。研究対象として、「歩く権利」に基づくフットパス整備がなされているイングランドを選定し、フットパスの法的な位置づけを明らかにした上で、その構成要素を整理した。さらに構成要素のひとつであるスタイルの設置意義と役割について分析を行った。

32. 棚田を中心とした農村景観の経年変化の解明

栗田英治・松森堅治（農業工学研究所）

棚田を中心とした農村景観の経年的な変化を、棚田の区画と棚田と関係する景観構成要素に着目し解析を行った。解析には複数年次の空中写真から作成したデジタルオルソ画像を用いた。あわせて、変化の要因となった営農・生活様式等の社会的な変化について、地元住民へのヒアリング調査・文献調査等から把握を行った。結果、過疎化・高齢化にともなう耕作放棄による水田面積の減少と、機械化等への対応にともなうまちなおし、小規模な圃場整備による区画規模の拡大による変化が同時に生じていることが明らかになった。

33. 世界遺産における「眺望」遺産-首里城・弁ヶ嶽・久高島/斎場御岳を結ぶVista Heritage-の保存の提唱

赤坂 信

34. 公共造園と戦後日本?わたしたちの職能のあゆみ

栗野 隆

（独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所）

小林邦隆（株式会社タム地域環境研究所）

馬場菜生（東京農工大学大学院農学研究科）

戦後日本の公共造園は戦前の流れを汲んで、東京五輪と同時期に職域としてスタートし、その後の列島改造論や万国博などの国家的政策・イベントを通して主義・主張を形成しつつ、職能としての専門性を社会に提示してきた。そしてわたしたちは今、景観緑三法や文化的景観の成立、RLA制度の誕生、愛・地球博の開催など、造園の職能・職域を考えて

いくうえで重要な出来事を次々と経験している。このポスターでは、今後わたしたちが造園という領域からどのように社会貢献していくかを展望するため、まず戦後日本の公共造園において先達が考えてきたこと、行ってきた仕事をトレースすることにより戦後造園を俯瞰的にとらえ、21世紀初頭という時代を共有しているわたしたちが戦後20世紀のいかなる状況の延長上に位置づいているのかを掴もうとした。

35. 半世紀にわたるUR都市機構のパブリック・アートの取組み

石原 晋・平井 勝
(独立行政法人都市再生機構)

UR都市機構が取り組んできたパブリック・アートの起源は古く、日本住宅公団設立から3年後の昭和33年8月に管理開始した東鳩ヶ谷団地における「流政之」氏がデザインしたベンチ等のファニチャーに始まる。その後も「ファーレ立川」や「新宿アイランドタワー」などのパブリック・アートの大きな潮流を生み出してきた。当該団地は平成12年に建替えに着手し、本年春に先工区の入居をむかえたが、当該団地のプロジェクト企画としてアート再生を掲げ、82歳にして未だ創作活動に積極的である「流政之」氏に半世紀を経て再度プロジェクトへの参画をいただき、住塚(SUMIZUKA)という新作アートとテーブル・スツールのリメイクという形で完成を見た。

36. 国営公園における知的障害者の受け入れ活動について

難波良憲(財団公園緑地管理財団)

近年、本格的な高齢化が進行する中で、「福祉のまちづくり条例」などの制定により、高齢者や障害者にとってのやさしいまちづくりへの展開・取り組みが急速に進んでいる。このような中で公園は、高齢者や障害者など社会的弱者が健常者と同じように利用し、交流できる開かれた空間づくりを積極的に進めていく必要がある。国営武蔵丘陵森林公園では、平成8年度より知的障害者更生施設「むさしの青年寮」の園内での活動の受け入れを行っている。これらの活動の受け入れにあたっては、ボランティアとの協働で活動を行っている。今後、国営公園をはじ

めとする公園緑地では、知的障害者の社会体験の場として、市民の活動の受け皿としてさらなる発展が望まれる。そこで、これまでの取り組みをまとめるとともに今後の課題を報告する。

37. 図面統合型データベースを用いた公園の維持管理業務の取組み

谷 博人(財神奈川県公園協会)
北川明介・西山秀俊(株グラック)

吉沢浩宣(株ヒラタソフトウェアテクノロジー)

フローからストック活用時代において、公園の維持管理業務の計画的・効果的な実施を図り、公園施設の長寿命化や利用者サービスの向上を実現するために、図面統合型データベースシステムを用いた公園の維持管理のPDCAサイクルによる業務とマネジメントに取り組んでいる事例を報告する。

即ち、維持管理計画(PLAN)から管理対象の抽出・集計と指示図の作成(DO)、そして履歴管理(CHECK)と計画へのフィードバック(ACTION)といった一連の作業をトータルに行うためのサポートシステムの構築を目的としたものである。今後は、本システムを活用してモニタリング情報の蓄積や開花情報等の情報提供サービスにも取り組んでいく予定である。

38. 壁面緑化による気温緩和効果に関する研究

根本 健・須崎裕一・涌井史郎・
油井正昭・飯島健太郎・石原俊彦・大幅元吉
(桐蔭横浜大学医用工学部)

酷暑期において壁面緑化がもたらす気温緩和効果の実態について検討した。緑化壁面と非緑化壁面(各々約5㎡)を対象に表面温度ならびに前面約10cmの気温を定点観測を行った。その結果、夏期日中の高温時に緑化面は非緑化面よりも15℃以上低く推移していたが、夕刻以降その差は小さくなり、夜間はほぼ同様の温度を推移していた。一方、前面の気温については、風速等の影響もあるが日中高温時に差は認められないものの、緑化面に給水を実施している間は気化熱によるものと思われる気温の低下が観測された。夕刻以降、夜間にかけては緑化面中央部から気温の低下が促進され、その効果が周囲に拡大していると思われる結果が観測された。

39. Sedum属数種の発芽特性

安田俊江・涌井史郎・油井正昭・飯島健太郎
(桐蔭横浜大学医用工学部)

セダム属2種(メノマンネングサ *Sedum japonicum*、メキシコマンネングサ *S. mexicanum*)の発芽について、気温条件の差異と貯蔵温度ならびに期間との関係から検討した。その結果、採播きではメノマンネングサでは15~20℃、メキシコマンネングサでは10~15℃の比較的低温条件で発芽が促進され、播種から1ヶ月を過ぎて最終発芽率に達した。その後、貯蔵期間の延長に伴って発芽特性は両種共に変化し、低温条件よりも25℃付近での発芽が早まる傾向が認められた。なお両種共に常温湿層貯蔵では、間もなく発芽能力は失われた。一方、低温乾燥貯蔵(約5℃、湿度30%)により4年以上発芽能力を有する種子が認められた。

40. 特養介護施設「緑の郷」の入居者に対する園芸療法の効果の検討

吉澤桃子・山口秀一朗・涌井史郎
・油井正昭・飯島健太郎
(桐蔭横浜大学医用工学部)

特養介護施設は事業の大半が身体介護であり、利用者のQOL維持と向上に資する介護が期待されている。そこで「緑の郷」をケーススタディとして、園芸レクリエーション導入前から、導入後の参加者の様子を活動時の観察と共に、バーセル法(BI)による日常生活動作の困難度とそのリハビリ効果、簡易痴呆診断(MMS)による認知症の状態の把握を試みた。その結果、約1年間のレクリエーション参加では、個人差などもありBIやMMSによって顕著な効果を認めるには至っていないが、介護スタッフの観察等からも心理面の変化や行動の積極性などの変化が観察されており、そうした効果に対する定量化の検討や更に長期的に調査を継続することの重要性が明らかとなった。

41. 園芸活動による高齢者の身体機能効果の検討

小山良子・丹羽 正・涌井史郎
・油井正昭・飯島健太郎
(桐蔭横浜大学医用工学部)

園芸療法の効用の一つとして、高齢者の身体機能の向上や低下の抑制等が期待されている。本研究で

は、園芸活動の中でもジョウロによる水やり動作に着目し、肩、肘、手関節を対象としてその関節運動による動作特性、その部位の負荷について検討した。その結果、水やり動作には調査対象者共通の特徴が認められた。また関節ごとに位置エネルギーとモーメントを求めた結果、水やり動作の停止時に瞬間的に肘、手首のモーメントが大きくなっている現象が認められた。以上の特徴から、類似の関節運動をとまう日常生活動作に着目し、その機能後退効果について検討した。

42. 傾斜屋根におけるリュウノヒゲを利用した緑化実験およびマルチング材の効果の検証

下田実千(日本大学大学院生物科学資源研究科)
石垣逸朗・勝野武彦(日本大学生物資源科学部)
地球規模でのCO₂増加に伴い地球温暖化防止について関心が高まっている。屋上緑化に期待される効果としてCO₂の固定、ヒートアイランド現象の抑制などが挙げられる。現在屋上緑化が施工された建物ほとんどが水平面的な屋上のものであり、傾斜屋根への緑化普及はこれからの課題と考えられる。本実験では軽量土壌と、軽量土壌・黒色土壌の混合土壌を用い土層厚を5cm・10cm・15cmと変え、リュウノヒゲを用いて土壌温度を測定した。結果軽量土壌と混合土壌では差はなく、10cm厚が最も温度変化がなく安定していた。マルチング材の量が50g・25g・10g・なしでは、実験区の傾斜が30.°の時は50gで土壌流出防止の効果を発揮した。

43. 播種床の違いによるミツバツツジの発芽率の比較と自生地における実生更新に関する考察

平林研人・森本淳子・勝野武彦
(日本大学生物資源科学部)

園芸用の盗掘や里山林の管理放棄により減少するミツバツツジの発芽環境を明らかにするため、発芽床に注目して発芽試験と野外調査を行った。発芽試験は本大学の人工気象室を使用し、野外調査は箱根山塊地域のミツバツツジ節自生地を対象地とした。発芽試験では播種床を変えて比較し、野外調査においては実生や地表被覆物の分布を調べた。その結果、発芽試験からは播種床による発芽率の違いは無く、恒常的な種子への水分供給が一定の発芽率をもたらすことがわかった。一方、野外調査ではリターが堆

積しづらく水分保持率の高いコケ上で実生を多く確認した。以上より、ミツバツツジの発芽は十分な灌水があれば培地を選ばないが、断続的で不十分な灌水では水分保持率の高い培地が必要になるという知見が得られた。

44. 南浅川と周辺住民の関係性変化にみる流域景観への影響について

石森俊也・小島亜美・丸川祐一郎
・村手久仁子・室橋拓弥・荒井 歩

本研究は、八王子市内を流れる南浅川の流域に住む人々が近世から現代まで、南浅川を生活の中のように位置づけ、利用してきたか、景観の視点から、関係性を明らかにするものである。時代推移において、南浅川と流域に各々の時代固有の景観として反映していたことが明らかとなった。第一に、川が人々の生活に必要な水を供給してくれる半面、洪水を引き起こす氾濫源だった時代。第二に養蚕産業の発展が図られ、川がもたらす肥沃な土壌、水が養蚕に必要な不可欠だった時代。第三に、養蚕産業の衰退と住宅化の進行が進んだ時代。これらの時代区分別の景観形成要因について考察を行った。

45. ネパール・サガルマータ国立公園におけるエベレスト登山がエベレスト・ベースキャンプの環境に及ぼす影響

下嶋 聖 (東京農業大学大学院農学研究科)
麻生 恵 (東京農業大学地域環境科学部)

本研究の目的は、大衆化時代を向かえ、観光化したヒマラヤ・エベレスト山域において、登山活動や観光開発が自然環境・社会環境にどのように環境負荷を与えるかそのしくみを明らかにし、エベレスト山域の持続可能な利用・管理方法を提示することである。本研究では、環境破壊の現状を把握するため、エベレスト登山の利用拠点であるエベレスト・ベースキャンプ(標高約5,300m)および周辺地域において調査を行った。その結果、ベースキャンプではヤクから大量に糞尿が排出・残置されるので、それが採水場に流れ込み、汚染していることが明らかとなった。調査結果より、GISを活用してエベレスト山域の持続可能な利用・管理方法を提案した。

46. 台湾の国家公園における施設・運営の民営化の

可能性に関する考察

Tu Chihhi・栗田和弥・麻生 恵
(東京農業大学地域環境科学部)

下嶋 聖 (東京農業大学大学院農学研究科)

本研究は台湾の国立公園制度(国家公園・国家森林遊楽区・国家風景区)の3種類。以下、国家公園)において、現在その施設・運営の民営化(B.O.T.)に向けた論議や国家森林遊楽区では具体的な展開がみられるようになった。しかし民営化導入の判断基準や長期展望は必ずしも明確にはされていない。そこで、今後の国家公園ならびに民間の活性化をもたらす可能性のある施設・運営の民営化を検討するための予備的な考察を行った。まず、現在の国家公園事業による施設建設の種類をその目的について一覧化し、民間による運営が行われている現状を分析した上で、現在民営化されていない施設・運営に対する実行可能性について検討を行った。

47. 横浜市金沢区における身近な公園管理の区役所移管の現状とこれから

岩間貴之(横浜市金沢区)

辻本 明(神奈川県自然環境保全センター)
栗田和弥(東京農業大学地域環境科学部)

横浜市における住区基幹公園を中心とした管理の主管部署は、2005(H.17)年度より公園緑地事務所(4事務所)から公園が所在する区役所(18区)に移った。また、2005年度は公園愛護会コーディネーターと共に運営管理を本格的に取り組んでいる。これらは民間あるいは市民の活力を生かした、①区役所の機能強化、②市民と協働の実績、の事例である。本報告では、横浜市における公園管理の方針を概括した上で、2004(H.16)年度からの管理体制の違いや、金沢区での取り組みについて報告し、海と歴史のまち金沢区の今後のまちづくりにおける身近な公園管理の課題や方向性について検討した。

48. 山岳地域におけるGPS等を活用した自然環境の保全管理情報の把握に関する考察

栗田和弥(東京農業大学地域環境科学部)

山岳地域における自然環境の保全管理は、その他の地域に比べ、状況の把握、情報の蓄積、そして変化を捉えることが難しい。その理由としては、1)詳細な地形図がなく、正確な位置の特定が難しく、

一方で3) 利用者への眺望景観の確保等のためベンチマーク等は避けたいこと、4) 生態系の脆弱性(植生復元の困難さ等)、5) 到達性等の悪さ、6) 管理者が判りづらい、等の制約が多いからといえる。そこで、本論は筆者他が植生復元活動を実施している巻機山を事例として、これまでの文字情報・図面等の情報を基に、GPS等による位置確認を加えて図化(視覚化)を試みた。これにより情報の共有化が図られると考えられる。

49. 中越震災の復興に向けて山古志・小千谷・川口から

中越震災みどり復興ワークキャンプ実行委員会
2005年8月27日(土)～29日(月)、新潟県長岡市、小千谷市、川口町において「中越震災の復興に対し何ができるか」をテーマとして、『'05夏 中越震災みどり復興ワークキャンプ in 山古志&小千谷』を開催した。当日は、地元学識経験者、県・市役所職員、地元でボランティア活動を行うランドスケープアーキテクトと共に講演会や、地元ランドスケープアーキテクトも同行した現地視察などにより、中越震災に対する認識を共通にした。ワークキャンプ最終日には、グループディスカッションを行い、今後も継続的な復興計画の立案とそれを実行するための行動を展開し、中越震災の復興に向けて今後も継続的に協働していくこととなった。

50. 中越震災被災地報告

中越震災みどり復興ワークキャンプ実行委員会
2005年8月27日(土)～29日(月)、新潟県長岡市、小千谷市、川口町において『'05夏 中越震災みどり復興ワークキャンプ in 山古志&小千谷』を開催し、第2日目に視察した被災地について報告する。当日は、復旧の跡が生々しい長岡市蓬平地区や7月下旬に避難勧告が解除されたばかりで現在も進入制限をされている小千谷市東山地区や長岡市の旧山古志村、川口町を一望できる町の観光・交流中心施設である蒼丘の杜公園などを視察した。被災地は、昨年10月23日の地震発生から約10ヶ月が経過しているが、本格的な復旧作業は春の雪解け後である今年の4、5月より始められた。11月に入ると再びみぞれが毎日のように降り始めるため、現在、懸命に復旧作業に取り組んでいる。

平成18年度 第30回造園夏期大学

東京 開催要領

- 会 期 平成18年8月23日(水)～25日(金)3日間
- 会 場 国営昭和記念公園・花みどり文化センター
- テ ー マ 「まちづくりとみどり・シリーズ」(第5回)
- 講義内容



日時	10:50～11:00	11:00～12:30	13:20～14:20	14:30～16:00
8/23 (水)	開講挨拶 (財)日本造園 修景協会 技術事業委員長 樋渡 達也	パークマネジメントシステム 導入による公園の安全・安心 NY大大学院でマネジメントを研究 し、同市公園局で実務を経験された講 師が語る公園マネジメントのポイント Playground Safety Network 代表 大坪 竜太	緑にかかわる 国土交通省の施策 2006年を展望する 国土交通省公園緑地課 課長 小川 陽一	ぐりんぐりん(緑の建築) 第22回全国都市緑化 ふくおかフェア・テーマ館の紹介ほか 自由曲面シェル建築の「建物自体が花園」で ある「屋上緑化実証テーマ館」の紹介 福岡市都市整備局公園緑地部 部長 植木 義文
8/24 (木)	二番町ガーデン 平成17年度技術コンクール国土交通大臣 賞受賞事業 西日反射の近隣影響低減と管理容易な システムを考慮した壁面緑化と屋上庭園 東邦レオ(株)緑化事業部 主任 殊数 孝	最近のヒートアイランド対策を めぐって 最新情報の紹介 都市の熱環境改善にかかわる 最新情報を紹介 国土交通省公園緑地課 課長補佐 加藤 順子	12:50～14:20	14:30～16:00 浮游の庭・花みどり文化センター 屋上緑化 (講義と現地説明) 昨年、国営昭和記念公園に開館したセンター・ 屋上庭園の全貌を紹介 (財)都市緑化技術開発機構 研究第2部研究員 今井 一隆
8/25 (金)	10:30～12:00 (講義) 国営昭和記念公園の整備 とマネジメント 利用者ニーズ等を踏まえた最近の整備状況と そのマネジメントを紹介 国営昭和記念公園事務所 所長 大橋 謙一	13:00～16:00 (現地研修) 国営昭和記念公園 国営昭和記念公園事務所 (財)公園緑地管理財団昭和管理センター 担当者		

大阪 開催要領

- 会 期 平成18年8月30日(水)～9月1日(金)3日間
- 会 場 山西福祉記念会館
- テ ー マ 水と緑の都市再生
- 講義内容



日時	10:15～10:30	10:30～12:00	13:30～14:30	14:40～15:20	15:30～16:30
8/30 (水)	開講挨拶 (財)日本造園 修景協会	「近世大阪の水辺景観 とその後の変貌」 大阪府立大学大学院 生命環境科学研究所 教授 増田 昇	「緑にかかわる 国土交通省の施策」 国土交通省 公園緑地課 課長 小川 陽一	「広島市の公園行政 について」 広島市緑化推進部 緑の施策担当課 課長 小林 孝夫	「『水の都ひろしま』の 取組みについて」 広島市観光交流部 水の都担当課 課長 新上 敏彦
8/31 (木)	10:30～12:00 「川のある風景から 水都大阪を探る」 (株)都市環境計画研究所 所長 長谷川 弘直	13:00～14:30 「大阪における水と緑 の都市再生」 大阪府都市整備部河川室 河川環境課 課長 辰谷 義明	14:15～16:30 「より身近に、よりわかりやすく伝え広める水と緑」 講演とワークショップ (有)サステイナブル・e (遠藤緑花計画室) フロリスケープディレクター 遠藤 尚美		
9/1 (金)	10:30～15:30 見学と現地説明 ・毛馬桜之宮公園(藤田邸跡庭園) 説明と現地案内 (株)ランテック計画研究所 取締役 中尾 幸彦 ・大阪アメニティパーク(OAP)周辺緑化施設 藤田邸跡庭園～OAP周辺緑化施設～アクアライナー船上より視察～中ノ島公園、大阪市公会堂等視察				

東京、大阪とも

- 参加費 修景協会・造園学会会員23,000円 非会員27,000円
- 募集人員 各会場60名
- この研修会は、CPD制度の対象となります

※申し込みについての問い合わせは協会本部へ 電話 03-3262-5730 FAX 03-3262-5767

日本造園学会ホームページのご案内 http://www.landscapearchitecture.or.jp/

ホームページでは下記の最新情報を掲載し、随時更新しております。会員のみならず、インターネットからどなたでも見ることができます。

学会広報は印刷郵送を廃止しホームページからのダウンロードによる配布を開始しております。お手数ですがトップページから「学会広報PDF」のページへ進んで読みたい号を選び、ダウンロードしてお読み下さい。また、最新のお知らせをいち早く掲載致しますので、会員の皆様は定期的に当ホームページを開いて頂きますようお願いいたします。

日本造園学会ホームページの内容

■造園学会トピックス

大会に関する告知など学会に関する重要な事項を掲載しています。必ずこのトピックスに目を通すようにして下さい。

■学会広報PDF

従来通りの内容の学会広報PDFファイルを掲載しています。ダウンロードしてお読み下さい。バックナンバーもダウンロードできます。学会広報PDFファイルを開くためにはAdobe Readerが必要です。Adobe社ホームページから取得して下さい。

※Adobe社ホームページは<http://www.adobe.com/jp>です。

■お知らせ

各種お知らせを掲載しています。最新の10記事のトップページに掲載します。過去の記事も閲覧できます。

■造園CPD制度

造園CPD制度に関する、最新情報、会員ページなど種々の情報を提供しています。

■日本造園学会について

概要、沿革、定款、活動内容、連絡先を紹介しています。

■入会案内

入会についての情報を掲載しています。

■関連リンク

RSSもご利用下さい

RSS対応のニュースリーダー等をお使いの方は、RSSボタンを用意しましたのでご利用下さい。

※RSSを使うと登録した様々な情報源からの最新情報をタイトル一覧で、一度にすばやく見ることができます。

↑学会広報のダウンロードはこちらから